



1061
発行
2022年
2月4日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
清野 聡
編集責任者
教 宣 部

組織拡大へ取り組もう

第192回拡大中央委員会
2022年1月9日ひらく

第192回拡大中央委員会が1月29日(土)東京都・新橋交通ビルで開催しました。

木村副委員長 開会あいさつ

はじめに、木村副委員長の開会あいさつ。コロナ感染拡大の中、まん延防止など発令中での開催となった。感染拡大しているが国労の要求獲得を目指し、闘争方針を確立する中央委員会にしたい。委員の御協力をお願いしたい」とありました。



全員の出席を確認

資格審査委員会から、9時55分現在、委員24名中、出席が12名、リモートの出席が12名を確認、拡大中央委員会が成立したことを宣言しました。



議長団の選出

議長には東京地本の熊田委員、副議長に北陸地本の太田委員が選出されました。

熊田議長は、「最重要課題である組織拡大をすべての闘いに集約していく。そして職場に運動が無ければ拡大に結び付かない。すべての職場で取り組みを展開したが、コロナ禍の中、厳しい状況となっている。自分たちは何ができるのか議論し行動を進めていく。国労は地域

第128回拡大地方委員会

○2月26日(土)
13時~

○地本会議室



の中でも労働組合として果たす役割は重要だ。労働条件改善の闘いを取り組み、2022春闘を職場から要求を上げて春闘を作っていく」とあいさつがありました。

発言は13名

委員からの発言は、組織拡大、職場・地域の闘いの報告がありました。

特に各地方本部の委員からコロナ禍の中での厳しい状況のなか国労運動を取り組んできことが報告されました。

6000円は妥当だ

○2022春闘の討論集会在12月に開催した。安心して働き続けられない実態が報告された。コロナ禍で厳しい状況が続いている。春闘要求額6000円は妥当だ。安心して生活できる最賃の設定を要求していく。春闘でのストライキは支持しない、慎重に判断してほしい。

列車の減便が提案、ローカル線の存続の問題、要員の削減など多く問題が出ている。

国労運動を継承発展させていくため組織を維持していく。組織拡大へ取り組みを強化する。



統一要求は重要

○年末手当が減額された。西日本は1.5ヶ月だった。ローンが返済できない実態が発生している。春闘要求では時代にあつた統一要求を考える。国労の闘いを進めていく統一要求は重要だ。

駅の無人化、出札業務の委託化が大きな問題になっている。ローカル線廃止反対の取り組み、住民を含めた公共交通を守る取り組みを進めている。

列車の減便、44本の提案、ダイヤで大規模な減便が提案される。公共交通を守る闘いを強化する。全国統一闘争の取り組みを展開していく。



○コロナ禍で厳しい状況が続いている。年末手当は低額回答だった。組織拡大し九州としての取り組みは後半はコロナ禍で厳しい状況だった。2018年以降、拡大が無い。1名の拡大について議論し取り組んでいく。若年者の退職が増えている。ローカル線は自然災害など発生し鉄道の存続が厳しくなっている



経営状況は厳しい

○1987年以降、JRが発足したが厳しい実態が続いている。安全問題や構造矛盾、三島・貨物の経営状況は厳しくなっている。

ローカル線の廃止、鉄道事業法の改悪で西日本は赤字ローカル線は廃止へ。鉄道事業法の廃止を求めている。沿線自治体で要請行動を展開している。

3月のダイヤ改でワンマン運転化になる。西日本は要員も削減する。駅ホーム、踏切など要員の削減で安全安心な鉄道輸送は出来なくなる。

組織拡大、国労の役割・世話役活動など分会が活動できる取り組みを進めていく。国労が職場の中心となっていくことが求められている。

せめて1万円のベースアップを要求

職場の労働者の要求を聞いて、その要求を求め、改善していく。職場の活性化から拡大を取り組んでいくこと。

機関活動 要求の集約、労働条件改善など悩み・本音を要求にしてい

く。国労運動を継承していくこと、春闘はストで闘う。春闘は大幅賃上げと最賃の改善、職場・地域で要求を出して取り組む。

賃金実態アンケート調査では要求額は3万円、せめて1万円のベースアップを要求する。



8割が未加入者

○組織拡大の取り組みで7名の拡大があった。若い組合員が他労組へ声をかけ拡大へつなげた。

東日本の社員は8割が未加入者だ。職場代表者選挙で組合員数以上の得票があった。労働組合の必要性を訴えていく。

組織人員も減少している。コロナ禍で会議が中止になっている。青年労働者の学習会を開催した。

リモート化を進めていく

○中央委員会の開催方法について、コロナが拡大し組合員のあり方についても考えていく。東日本本部の委員会はリモートで開催している。オンライン会議は時代の流れだ。感染防止のためリモート化を進めていくこと。

組織拡大し現職が減少している。JR東日本は組合加入者は2割を切つ

只見線応援団

○ネットで「只見線応援団」というのがありました。

只見線応援団とは「東日本大震災」と2011年7月の「新潟・福島豪雨」によって甚大な被害を受けた「只見線」を後押しするため「只見線応援団」を設立し、一緒に応援してくれる会員を募集しているということです。

興味がある方は、ネットを参照してみてください。



た。厳しい状況の中、社員はあきらめがある。会社組織のあり方・JR東日本は組織改編の提案をした。



賃金大幅な減収

○コロナの感染拡大で大幅に収入が減少した。賃金は年間1000万円の減収となった。

ベアは0、年末手当はカットされた。賃金実態アンケート調査では3万円の要求額となった。内部留保を崩せば十分に要求額に達する。会社は社員に還元しない。統一要求として闘うが定昇の完全実施とベースアップを求めて闘い要求していく。

労使間の交渉について関係はどうか、他労組や未加入者を巻き込んだ闘いを取り組むことが重要だ。街頭への宣伝行動、ストを含めた闘い、JRへの抗議行動も取り組み運動を進めていく。

代表者選挙、ユニオンと共闘した。落選した。職場ではユニオンを選出した。コロナ対策など労働組合から出来る取り組みを訴えていく。

総選挙は市民と野党共闘で闘っていく。憲法活かす取り組みを。

編集後記

委員から積極的な意見が出されました。次号は、松川委員長のおいさつなど特集していきたいと思ひます。詳しい内容については、後ほど国鉄新聞で特集すると思ひますのでよろしくお願ひします。

1月はあつという間に過ぎていったように感じます。新潟県も「まん延防止」が発令されました。1月21日から2月13日までです。

なかなか感染者数が減りません。今日2月2日、700名に達しました。しばらく続きそうです。春はもうすぐなのに・・・



2月の地本が企画する会議が中止になりました。26日の拡大地方委員会の開催も厳しいです。

これから春闘の行動もありますし早く収束して欲しいですね。

中央委員会の特集になりましたが地本はリモートでの出席、委員の発言が聞き取り難く大変でした。詳しい内容は「国鉄新聞」を参照してください。

